

第一二二回通信句会 選句結果

平成二十八年夏。選句数は五句、うち特選一句。
(○内の数字は、特選句数で選句の内数です)

2点	崎陽軒たまの贅沢猛暑かな	かおる	2点	朝刊を読み終へしより蝉しぐれ	秀一
2点	半衿を絹に替え姉妹の酒処	幸	3点①	諫言のひとつ空しき冷し瓜	守
5点②	風疾し子の放たれしキャンプ村	守	3点	コラーゲン充ちぬし赤子水練す	明美
	日本でも女帝誕生夏の朝	直子	3点②	呼気苦し炎天肺を蝕めり	幸枝
3点①	扇風機むかしの風の独り占め	秀一	7点①	遠花火走らぬ文に向かひをり	ツル子
4点①	夏霧や牧の牛の背黒光る	友子	1点	夏の日に空から望む黒き富士	眞壽
2点	子と摘みし朝の庭なり熟れとまと	ツル子	1点	レシビ無視の我流の夫や夏料理	友子
3点	朝顔よどこへ行くかと巻きなおす	眞壽	2点	一端の太鼓奏者や祭髪	かおる
5点	麦秋や風道くぐる櫂の音	才美		父愛用し網襦袢の箱ありき	幸
3点①	一輪の薔薇も重たし負傷の身	安紀子	6点①	車庫を出る路面電車や原爆忌	朋子
	初夏のきて並びし椅子に露天風呂	眞三	3点	うどん打つ腕太き婆日輪草	ヤエ子
	花莫盛や背を預けて浅き夢	幸枝	3点	三門に立てば下界は蝉時雨	幸子
7点	青空を組み合はせたる代田かな	のり子	3点	ビードロの皿に日を盛り夏料理	安紀子
2点①	ウイルスの影の蠢く茂りかな	明美		街路樹の発する蝉や一段と	眞三
3点①	夏蝶や標たよりの森の道	幸子	2点①	濃紫陽花剪りて帰帆を見失ふ	才美
1点①	青葉潮までひと息にロープウェイ	朋子		夏祭り綿菓子焼そば合歓の花	直子
	涼風来ホーム通過の電車かな	ヤエ子			
1点	赤白の帽子の波や夏の蝶	のり子			
2点	やむ雨を待つかに寺の蝉鳴きぬ	ツル子			
	句集読む語彙乏しきや汗拭ふ	かおる			
	階段の灼くる手すりや凌霄花	ヤエ子			
	街向ひ向ひ風なる風涼し	眞三			
1点	母の忌の兄妹多弁夏果つる	秀一			
1点①	ファベールに響く跣足の子のサンバ	明美			
1点	温泉の湯船に浮かぶ夏蜜柑	眞壽			
	白上布老舗の女将の結綿髪	幸			
9点②	蚊遣火を焚いて真昼のカフェテラス	幸子			
2点	遠汽笛ほたるぶくろに灯を入れよ	才美			
4点①	夕立や少し傾斜の駅ホーム	守			
4点①	糠床に茄子は茄子紺残しけり	幸枝			
3点	県境のせせらぎまたぐ夏野かな	友子			
6点③	山滴れり銃声の一度きり	朋子			
4点	ひぐらしの声しみとおる齡かな	安紀子			
	古希の友暑中見舞で賀状止め	直子			
4点②	籐椅子の父の形のへこみかな	のり子			

「事務局からお知らせ」

○九月句会

期日・九月二十五日(日)午後一時から
会場・旭区民文化センター(サンハート)

○十月句会

期日・十月三十日(日)。
大磯で吟行後、鳴立庵で句会を行います。詳細は、
追って、お知らせいたします。